●水稲の有機栽培マニュアル

時期	作業	要点
3月～4月	圃場の準備(畦畔成形、均平作業)	・なるだけ深水管理のできる圃場を選定する。5cm以上水深があればアイガモロボが稼働できる。
5月	代掻き	・雑草抑制のために、2回代掻きが有効。1週間以上期間を空け、2回目は田植えの2・3日前に行う。
	播種・育苗	・アイガモロボを使用できる水深の確保のため、中苗にする。
6月	田植え	・アイガモロボの抑草作業で稲の分げつ発生が抑制されることがあるので、１株あたり５～６本と多めに植え付ける。
移植後1週間	アイガモロボ稼働開始 	・根の活着前に稼働させると苗が引き抜かれてしまうので、**田植えの1週間後から稼働させる。** ・稼働が遅れて2週間後ともなれば、雑草が生えてしまい、抑草できなくなるので注意する。 ・**1反あたり1日2時間**稼働させる。長いと根を痛める原因になり、少ないと水面の濁りが足りず抑草効果が低下する。 ・稼働により苗が倒伏することがあるが、数日で元に戻る。戻らない場合は、一旦稼働を止める。 ・草丈が伸びてくると稲が折れることもあるが、実証ではその後問題なく成長した。
移植後1か月	アイガモロボ引き上げ 	・草丈が40cm程度で引き上げる。(水位にもよる)
7月～8月	除草	・畦畔の草刈りを行う。 ・株間の雑草は適時取り除く。
8月	中干し	・目標茎数に達したら、7日～10日程度の中干しを行うことで、ガス抑制、倒伏防止の効果がある。
10月	収穫	・籾の80～90％が成熟して黄色になり、成熟期となったら刈り取る。
11月	秋耕	・収穫作業後に早期に稲わらをすき込み、混ぜることで、カリ・ケイ酸等を田に還元することができる。